

名城大学 第26回 FD・SD フォーラム

テーマ：学生の成長を支える授業設計

日時：2025年1月8日(水) 13:00～14:50

開催方法：Zoom ウェビナー

【開催趣旨】

Society 5.0 時代を迎え、社会が急速に変化する中、高等教育では学生が生涯にわたって主体的に学び続ける力を育むことが重要な課題となっています。変化の激しい時代を生き抜くためには、知識習得だけでなく、自ら課題を発見し、学び続けることのできる自律的な学修者の育成が不可欠です。

そのため、高等教育では「何を教えた」から「何を学び、身につけることができたか」への転換が期待されています。しかし現状では、知識の伝達と定着に重点が置かれ、その知識を活用した主体的な思考・判断の機会が十分ではない場合も見られ、これは学生の成長を支える上での重要な課題となっています。

本フォーラムではこうした課題認識のもと、学生の成長を支える授業設計について理論と実践の両面から探究し、参加者の教育実践に活かせる具体的な示唆を提供します。



基調講演

「授業時間中の学習を促す授業設計」

中島 英博 氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授）

【お申し込み方法】

以下の URL または QR コードからお申し込みください。お申し込み後、参加方法の詳細が自動メールにより送付されます。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_ZgvGaoL2TkyMqFbDEhFhVQ



事例報告

「どうしたら学生の成長を支えることができるのか
心理学の授業における一考察」

原田 知佳 氏（名城大学 人間学部 准教授）



【お問い合わせ先】名城大学 大学教育開発センター

E-Mail : edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp

TEL : 052-838-2032（内線：2653）

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 - 2026

第 26 回 FD・SD フォーラム企画「学生の成長を支える授業設計」実施報告

1. 実施概要

- 日 時：2025 年 1 月 8 日（水）13：00～14：50
- 場 所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催
- 基調講演 テーマ：授業時間中の学習を促す授業設計
- 基調講演 講師：中島 英博 氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授）
- 事例報告 テーマ：どうしたら学生の成長を支えることができるのか 心理学の授業における一考察
- 事例報告 講師：原田 知佳 氏（人間学部 准教授）
- 参加者数：130 人
（本学専任教員等 100 人、本学事務職員等 15 人、他大学教員 6 人、他大学職員 3 人、その他 6 人）

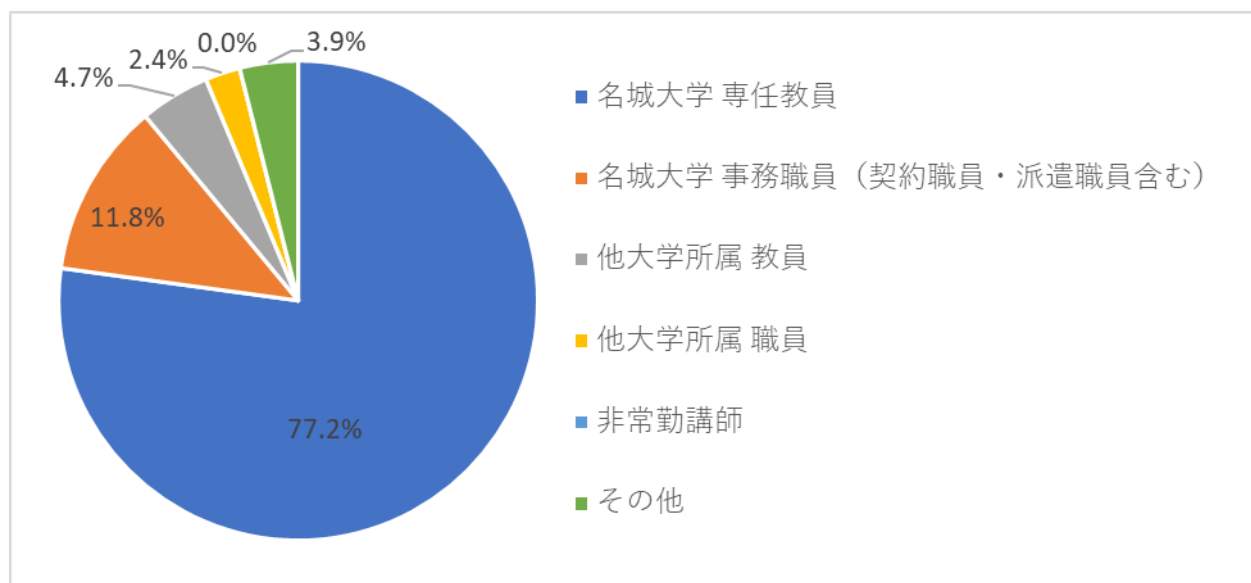
2. アンケート方法等

アンケート方法：Google フォーム

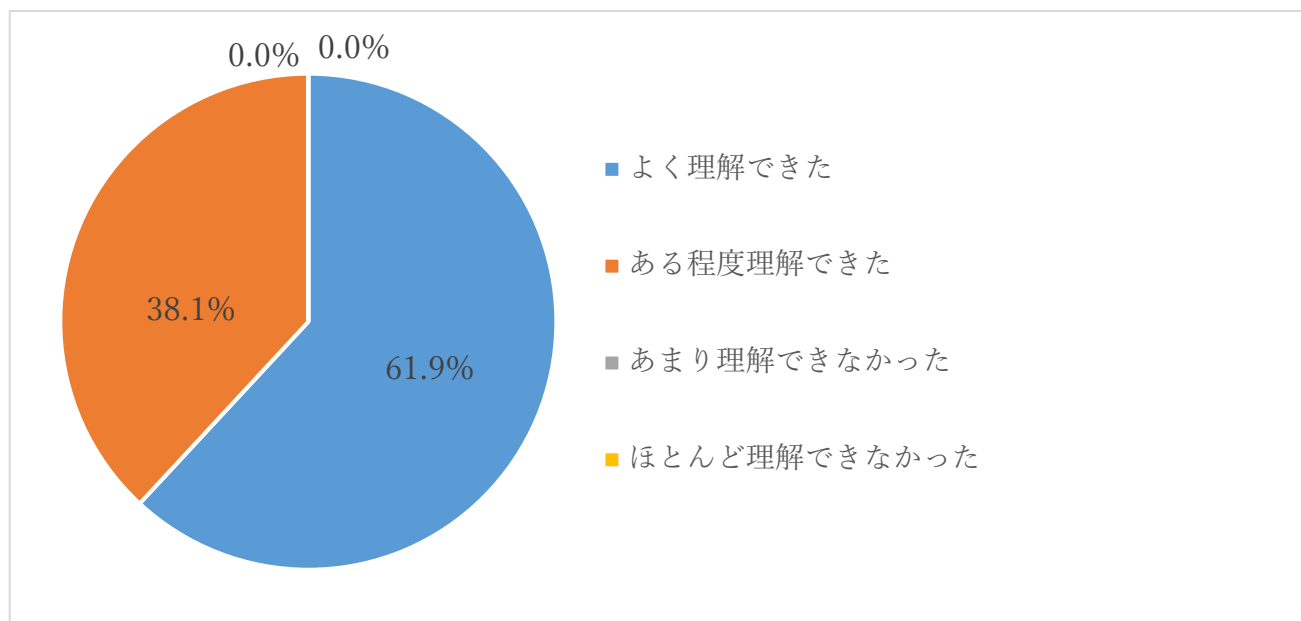
- 質問項目：以下のとおり
- ①所属をお知らせください
 - ②基調講演の内容は理解できましたか？
 - ③基調講演の満足度について教えてください。
 - ④基調講演において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
 - ⑤事例報告の内容は理解できましたか？
 - ⑥事例報告の満足度について教えてください
 - ⑦事例報告において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
 - ⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください
- 回答者人数：84 名
- 質問④、⑦、⑧について主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

3. アンケート結果

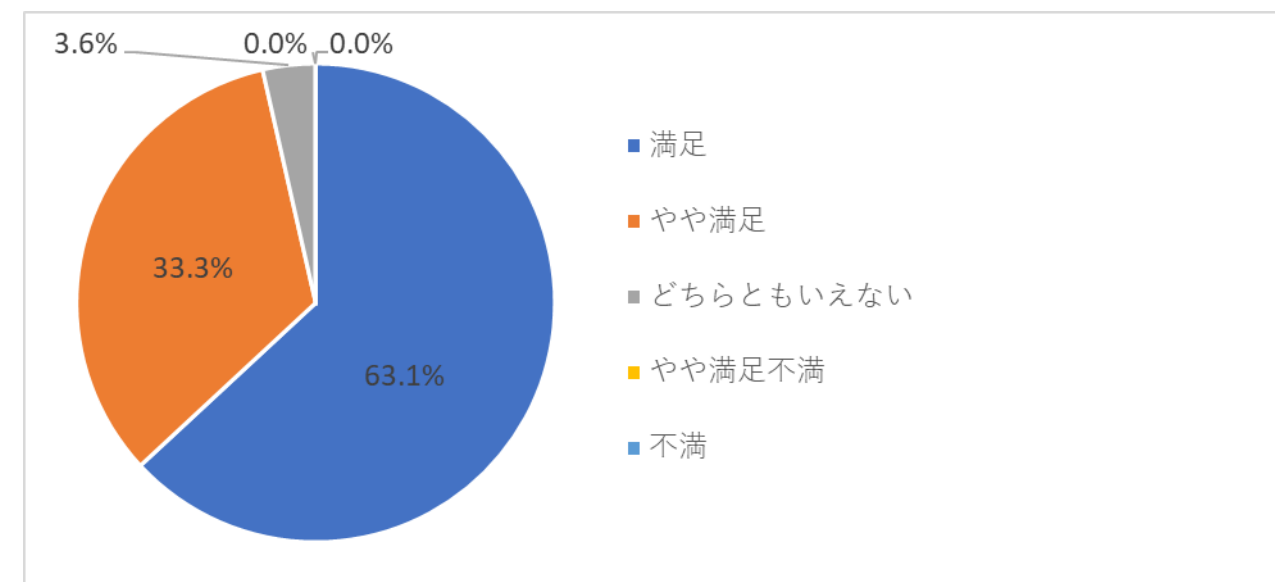
①所属をお知らせください。



②基調講演「授業時間中の学習を促す授業設計」の内容は、理解できましたか？



③基調講演「授業時間中の学習を促す授業設計」の満足度について教えてください。

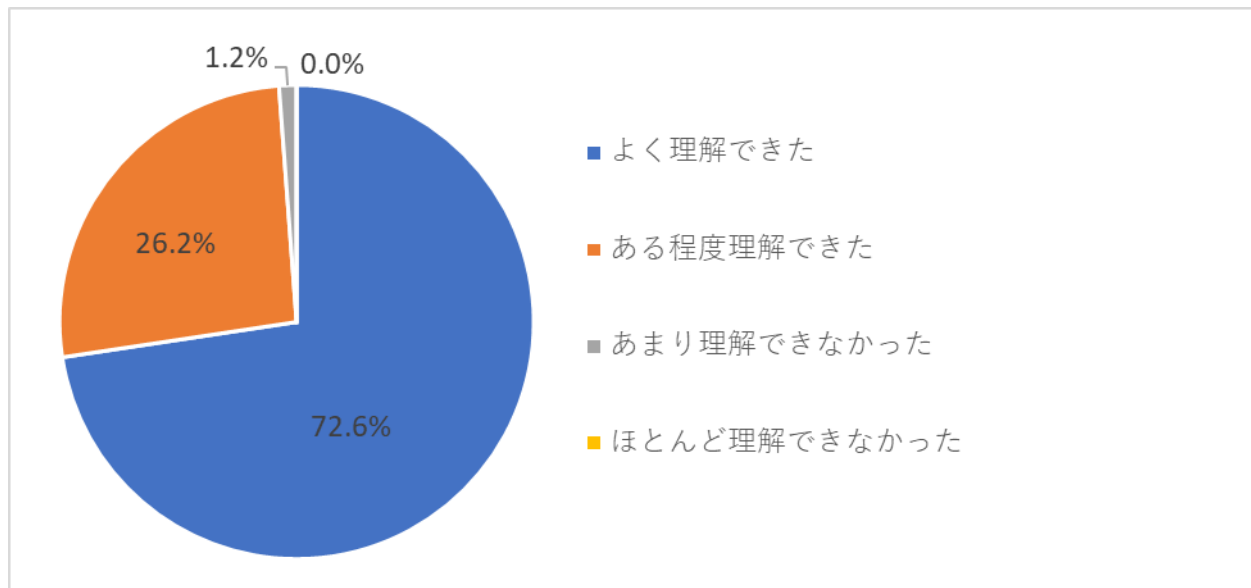


④基調講演「授業時間中の学習を促す授業設計」において、興味を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。

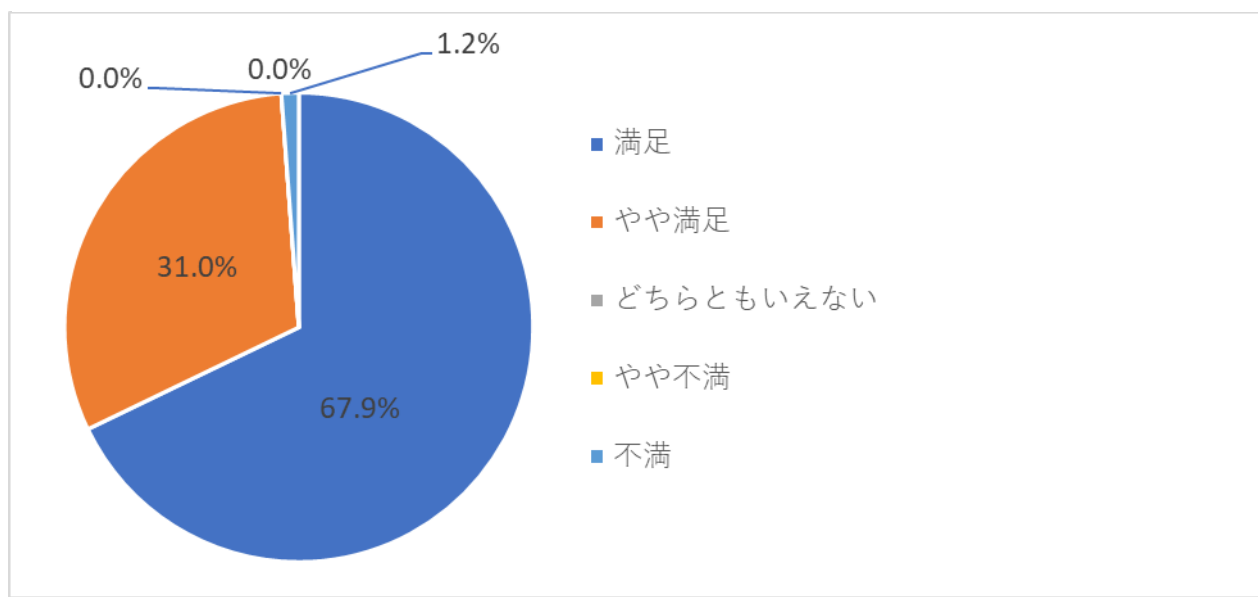
- ・内化と外化のサイクル
- ・学習活動の設計例を多数用意いただき、結論へつなげていくところ。
- ・内化と外化の組み合わせ方
- ・内化 外化 内化 と分けるところ
- ・マクロな視点からの科目編成
- ・カリキュラムで対応する、時間割のあり方を検討する
- ・カリキュラムの設計を工夫する

- ・ 学生が成長を実感できるよう外化の工夫に取り組む
- ・ 外化が不可欠と感じた。外化をどう活用するか、が大切。
- ・ 授業構成における内化と外化の統合
- ・ 到達目標実現のための方法論について
- ・ 授業設計において学生の実体験を通じて活かせるような工夫が重要だと感じた。
- ・ 個別教員の努力に委ねず、組織が責任を持って設計すること
- ・ 学生の自学自習時間の確保には、単位制やカリキュラムの大幅な改正など、組織としての対応が重要だ
と
思
っ
て
い
ま
し
た
の
で、今回のお話においても「組織的に取り組む」の部分に関心を持ちました。
- ・ 組織としての取り組みの重要性
- ・ 適切な授業設計を無理なく行うために、カリキュラム、時間割配置の見直しなども必要であるという点。
- ・ 教育の質向上に関しては、そろそろ教員個人レベルでの対応は難しくなっており、組織レベルでの
対
応
が
重
要
に
な
っ
て
い
る
の
で
な
い
か
と
い
う
問
題
提
起
に
は、まさにその通りという感を強くした。
- ・ 内化と外化を組み合わせた学習活動事例や授業設計を組織的に取り組まれている内容がとても興味深く
感
じ
ら
れ
ま
し
た。
- ・ 授業設計について、個別教員の努力に委ねず、組織が責任を持つことは、合理的かつ必要な視点と考え
ま
す。しかしながら一方、一部の教員からは授業内容への大学の介入ととらえられ、実施については困
難が予想されます。立命館大学では、このような問題はなかったのか、お伺いできればと思いました。
- ・ 個別教員の努力に委ねず、組織が責任を持って設計という部分
- ・ 内化と外化を組み合わせるという点ですが、基礎科目では外化の設定が難しいとは思いました。
- ・ 内化と外化のサイクルを1つの授業内で取り入れるという点から、より自分の授業で明確に取り入れて
み
よ
う
と
思
っ
た。
- ・ 授業の構成原理に対する考え方
- ・ 過度な網羅主義および活動主義に陥らないことと、内化と外化のサイクルをうまく確立することが大事
だ
と
思
い
ま
し
た。
- ・ 先生方個人の努力はもちろん、大学（学部）として取り組むことの重要性がよく分かりました。
- ・ アクティブラーニングを有効的に実行するには従来のカリキュラムから抜本的な見直しをすることも必
要
だ
と
感
じ
ま
し
た。
- ・ 演習や実習の重要性、興味関心を高める工夫などが教育効果を高めるポイントと感じた。
- ・ 学んだことをすぐに使うこと、知ったことをすぐ試すことで、成長実感を感じる。
- ・ 科目の統合や大括り化、時間割のあり方を検討する（Umass Boston の例）
- ・ 内化と外化をうまく工夫して繰り返すことで学生の学修効果を高められることが分かった

⑤事例報告「どうしたら学生の成長を支えることができるのか 心理学の授業における一考察」の内容は、理解できましたか？



⑥事例報告「どうしたら学生の成長を支えることができるのか 心理学の授業における一考察」の満足度について教えてください



⑦事例報告「どうしたら学生の成長を支えることができるのか 心理学の授業における一考察」において、
関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。

- ・学生の匿名化の解消は重要だと思う。これは学務のシステムの話になりますが、履修者名簿を配布される際に、受講生の顔写真がつくようになると、大教室での講義における匿名化の解消に大変役立つと思う。
- ・学生の名前を覚える点は、講義科目に加えて、実験・実習でも重要だと思いました。
- ・大福帳の作成、学生の非匿名化
- ・Be Real に関しては、私も対応に困っていたのですが、良いアイデアをいただいて、助かりました。学生

とのかかわり方や参加を促す工夫をしていくことが大事だと思いました。

- ・授業内で学生参加を促すことによって、成長実感につながるという点にヒントを得た。
- ・非匿名性（160 人の名前覚えられるように頑張ります）
- ・大福帳やグループワーク等による双方向コミュニケーション
- ・大福帳、「全員がリーダー」の高いパフォーマンス、ランダムで出欠確認等
- ・学生の名前を覚えることは重要だと感じました。
- ・WebClass 大福帳を用いた学生の理解度判定
- ・受講している学生を理解しようとする姿勢
- ・逸脱行為への対応方法
- ・学生の名前を覚える。授業内容と実生活を関連づける課題を与える。これらを取り入れたい。
- ・逸脱行為を生起しにくくする環境づくり、実体験をさせて考えさせる
- ・疑問に思ったことを、自分で調べることで、応用が可能となる点。
- ・学生からの声にひとつずつ対応する話
- ・匿名可掲示板の利用
- ・学生は必ずしも受け身ではなく、少し刺激を与える（工夫をする）ととても意欲的に授業に取り組み、成長をするのだということを実感しました。
- ・単純ではありますが、個々の学生との細やかなやり取りが重要だということを再認識した次第です。
- ・受講生の非匿名性を高める（名前を覚える）点
- ・大講義室においても学生一人一人とのやりとりを行うことで、学生の意欲を促すことができると思った。
- ・非匿名状況の重要性は理解できるが、通常の記憶力では実現が困難ではないかと思った。
非匿名状況が有効であること。成長を実感する大講義（147名）（上位10の特徴リスト）
- ・学習時間の増加に向けた取り組み
- ・非匿名化については、（原田先生がおっしゃっていた有益性はもちろんですが、）意図していないプレッシャーを学生に与えてしまう可能性も懸念され、運用がやや難しいようにも思いました。
- ・任意課題による加点が効果的であるということ。講義の意義を学生に理解してもらうことが成長実感の第一歩であるということ。
- ・身近なサンプルの提示。匿名性の排除、ただし200名以上の大人数教科でどう実現すればよいか。
- ・授業改善アンケートからの学生の声に対し、真摯に向き合い、改善に取り組まれている先生方の対応内容や現場の生の声をお聞きすることができ、とても勉強になりました。

⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください

- ・今後の授業に活かしてゆきたい
- ・いつも以上に勉強になりました。ありがとうございました。
- ・自分の講義でも活用したいアイデアがおおかったので有意義でした。
- ・今回のように、自分の講義にすぐに導入できそうなことを紹介していただけるとありがたい。
- ・教育論を否定するものではないし誤った内容ではないのだと思うが、教育を提供する側がどう頑張ったとしてもその意図に寄り添える学生でなければまったく意味はない。大学本部には学生数を確保して経営のことばかり考えるのではなく、自ら学ぶ意欲のない学生の排除は辞さないという意識を持っていただきたい。末端は疲弊するばかりだ。
- ・貴重な話題をご提供いただきありがとうございます。
- ・職員という立場ですが、学生とどのように接するといいかを学ぶ機会になりました。
- ・授業に近いお話しでしたので、多くの教員にとって有用だと思いました。
- ・やはりどの先生方も、ぎりぎりのリソースでやりくりをしているという印象を強く持っています。そのあたりの手当てをどうするべきか、全学的に考える必要がありそうです。
- ・学習の「主体性」なるものの概念が、学問領域によって異なるように思いました。その違いを、大学全体の教育目標、あるいはFD活動としてどのように扱うのかを問うてもよいのか、問題にする必要はないのか、もやもやしています。
- ・到達目標実現のための方法論について、現実的な制約（大学カレンダーや講義回数等）との整合の取り方は大学ごとに事情が異なるため、必ずしも他大学事例を単純移植できないと思われた。
- ・原田先生からご紹介がありました、学生が感じる成長実感のある授業の上位にある取り組みは、本学でも授業アンケートの上位となっている科目でも実施されているものと重なり、授業アンケートの有効性を感じることができました。
- ・この度は貴重な研修会にお招きいただきありがとうございました。また機会がありましたらお声替えいただけますとありがたい限りです。
- ・特に原田先生の講演で、調査結果が生かされていると実感できまして、ありがたいと思いましたし、身が引き締まる思いを感じました。
- ・特に中島先生の「学習活動の設計」については、非常に具体的で参考になった。
- ・学生の学びを深め、自学自習時間を確保するには、名城大学もこうした個性的で特色のある授業設計や柔軟な授業時間の設定、独自の単位設定など、抜本的な改革が必要だと思いました。
- ・毎回非常に貴重なお話を拝聴でき、大変勉強させていただいております。今回も参加させていただき、誠にありがとうございました。

以上